

DA-3000 による DSD 研究(3) —MR-2000sBK との比較試聴—

1. はじめに

河口無線での試聴会と A 氏邸での試聴会の結果から GPS-777 のクロック入力を行った DA-3000 による DSD 再生の音に大きな期待を持ってました。今回は DA-3000 が届きましたので、A 氏を招いて両者の比較を行うことといたしました。

2. MR2000sBK と DA-3000 の入出力端子

試聴の前に両者の入出力端子を比較してみます。

MR2000sBK の入出力端子



DA-3000 の入出力端子



写真から一見して分かるように DA-3000 の入出力端子の方が豊富なことです。特に DA-3000 では、プロ用規格の SDIF-3 (DSD raw) 入出力が可能で、将来 DSD の受けと出しを行うことも想定して購入を決めました。

なお、録音は MR2000sBK が HDD で行うのに対し、DA-3000 は SD カードと CF カードで行います。また、DA-3000 は USB メモリーからの再生ができます。

3. 比較試聴の方法

今回は録音を行わず、手っ取り早い方法として入力ソースをモニターする方法で比較しました。設定は、DSF、5.6MHz とし、DAC-1 からのバランス入力とします。マスタークロックは DSD の場合、両者とも GPS-777 から 44.1KHz を GPS-777 から入力します。

音源は BZT-9000 の BS 録画の再生と EMT981 による CD 再生、MR2000sBK の HDD

再生と DA-3000 の SD カードからの再生です。



4. 試聴結果

河口無線での試聴会のレポートとして、「第一印象は、GPS-777 のクロック入力では両方とも目覚ましく変化したし、MR-2000sBK は穏やかな暖かい音、DA-3000 は抜けが良く透明感に優れている」と評しましたが、1:1 比較で、その印象が変わっていないことが確認できました。

BZT-9000 の BS 録画の再生と EMT981 による CD 再生とも、MR-2000sBK では切れ味はそれほどでもないですが、穏やかで中低域に厚みのある暖かい音です。一方の DA-3000 は切れ味が良くディテールが見通せて透明感に溢れています。

MR-2000sBK でアナログから録音した音源を SD カードにコピーしておきましたので、MR-2000sBK の HDD 再生と DA-3000 の SD カードからの再生を行って見ましたが、同様の印象で、例えば、チェロの胴鳴り感は MR-2000sBK で豊かに響きますが、DA-3000 ではボウイングのディテールが良く出ているといった印象です。A 氏が早速 DA-3000 で録音した SD カードを持参されましたので、これも聴いてみましたが、非常に良く録れていて今後の録音に期待が持てました。

ここで、事前に温めていた MR-2000sBK と DA-3000 の「DSD2 重連」というのをやってみました。即ち、MR-2000sBK のアナログ出力を DA-3000 のアナログ入力に入れる、またはその逆で、アナログ→DSD→アナログ変換を 2 回行うという試みです。その結果、両者の音の混ざり合った音に変わることが分かり、後の方のレコーダーの音が優位になることが確認できました。好みとしては、DA-3000 の透明感にやや MR-2000sBK の穏やかな性格を持ち込んだ、【MR-2000sBK⇒DA-3000】の「DSD2 重連」が良いということで A 氏と意見が一致しました。

5. まとめ

MR-2000sBK と DA-3000 のそれぞれの音の特徴が把握でき、DA-3000 に GPS-777 からの外部クロックを入れた音は非常に満足すべきもので、DA-3000 での録音に期待が持てました。また、【MR-2000sBK⇒DA-3000】の「DSD2 重連」の試みも興味あるものでした。

以上